

学長の業務執行状況の確認に基づく中間評価結果について

令和 7 年 8 月 5 日
国立大学法人福島大学
学長選考・監察会議

国立大学法人福島大学学長選考・監察会議において、学長の業務執行状況の確認に基づく中間評価を行いましたので、その結果を公表いたします。

1. 確認のプロセス

(1) 「業務実績に関する自己評価書」の検討

第 17 回学長選考・監察会議（令和 6 年 9 月 3 日）において、学長の作成する「業務実績に関する自己評価書」の項目等について検討を行った。

(2) 「業務実績に関する自己評価書」の作成依頼の確認及び依頼

第 20 回学長選考・監察会議（令和 7 年 3 月 18 日）において、学長へ「業務実績に関する自己評価書」の作成を依頼することを確認し、学長に依頼（令和 7 年 4 月 1 日）した。

(3) 監事との意見交換

第 22 回学長選考・監察会議（令和 7 年 6 月 24 日）において、監事と学長選考・監察会議との意見交換を行った。

(4) 資料確認（令和 7 年 6 月 3 日～8 月 5 日）

次の資料の確認を行った。

- ①業務実績に関する自己評価書
- ②令和 6 年度の期末監事監査報告書
- ③令和 6 年度運営計画自己点検・評価報告書

(5) 学長へのヒアリング

第 22 回学長選考・監察会議（令和 7 年 6 月 24 日）において、学長に対するヒアリングを行った。

(6) 評価結果の確認

第 22 回学長選考・監察会議（令和 7 年 6 月 24 日）及び第 23 回学長選考・監察会議（令和 7 年 8 月 5 日）において評価結果の確認を行った。

2. 結果

令和6年度における学長の業務は適切に執行されていると判断する。

3. 学長選考・監察会議における主な所見

○学長は再任1年目も通常の業務に加え、引き続き学士課程改革に尽力し、改革全体の設計図とも言える「福島大学グランドデザイン2040」を公表した。また、財政・人事面に関しても、厳しい状況下で学内での丁寧な議論を重ね、熱心に取り組んでおり、総じて、学長の業務は適切に執行されていると判断する。

学士課程改革に関して、先送りできない問題だとし、何としても学士課程を変えていかなければならないという、その一心で真摯に取り組み、各種会議において何度も検討を重ね、「福島大学グランドデザイン2040」の公表をとおして今後の福島大学が進む方向性を学内外に示したことは評価に値する。

○学士課程改革をこれからより具体的なものにするには、まだまだ取り組むべき事項が多い。今までは構想段階だったため、審議の中心は執行部、学類でも設置準備室中心だったと思われる。

今後さらに具体的な方向性を固めていくためには、現状よりも広範囲の構成員の力が必要であり、学内各部署とのコミュニケーションを欠かすことはできない。学内外含め、積極的にコミュニケーションを図りながら取り組むことを期待する。

○研究力向上に関しては、文系大学のイメージが強い福島大学において、研究を教育に還元することによって高度な人材育成を行っていくことこそ国立大学の最大のミッションと捉え、研究力向上アクションプランに基づき取組みを進めてきた。結果、令和6年度には科学研究費助成事業の申請件数及び獲得額に大きな向上が見られ、福島国際研究教育機構（F・REI）では福島大学が代表で実施する事業として7件の研究プロジェクトが採択された他、経済産業省公募事業（「廃炉・汚染水・処理水対策事業費補助金」の事業）にも採択される等、大型予算も獲得している。引き続き、取組みを推進していただきたい。

○学士課程改革に付随し発生する諸課題への対応や、本学におけるガバナンスの整理・見直しを行うため、ガバナンス見直しワーキングチームを組織し、問題点への対応を行っている。円滑な大学運営のためには重要な取組みであるため、構成員の声を吸い上げながらも、権限と責任の所在を明確にしつつ学長のリーダーシップを発揮してほしい。

○学長は限られたリソースの中で、学士課程改革を着実に進めつつ、様々な課題

に真摯に取り組んでいる。残りの任期においても、学士課程改革の進展と、持続可能な大学運営の実現に向けて、学内外の協力を得ながら、引き続き尽力することを期待する。